

第12回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の画像計測」

(The 12th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property—Analysis and Examination of an Art Object by Imaging Technique—)

文化財における画像処理、非接触法による絵画の研究、コンピュータによる記録の処理法などを取り上げ「文化財の画像計測」のテーマで開催した。赤外線やX線の画像を用いた文化財の非接触調査は、我が国では光学的方法と呼び慣わされているが、ここでは画像処理技術の文化財への応用をテーマとした。赤外線やX線画像を処理することによる文化財の調査のほか、コンピュータを用いた博物館資料の計測と記録などについて発表と討議が行われた。このシンポジウムは、京都国際会議場で開催されたIIC(国際保存学会)京都大会の1週間後に開催されたので、外国からの参加者を多く迎えることができた。

日程: 1988(昭和63)年9月29日～10月1日

会場: 社会教育研修所

9月29日

	発表者	演題
1	Christian Lahanier(フランス博物館群研究所)	[基調報告]美術品のデジタル処理—画像の研究と保存—(Digitization of Works of Art—Study and Conservation of Scientific Images—)
2	秋山光和(学習院大学)	[基調報告]美術史的研究に対する赤外線テレビ及びエミシオグラフィの適用—鶴林寺太子堂柱絵と平等院鳳凰堂壁屏面の調査を中心に— (Application of IR Reflectography and Emissiography to Art Historical Research—Focusing on Recent Studies of the Paintings at the Kakurin-ji and Byodo-in—)
第1セッション		
1	Andreas Burmester(バイエルン州立美術館)	近赤外線を利用した絵画の研究(The Study of Drawings in the Near Infrared)
2	Mstio Milazzo(ミラノ大学)	絵画調査における近赤外線の利用(Use of Near Infrared Radiation in Examination of Paintings)

9月30日

第2セッション

1	三浦定俊(東京国立文化財研究所)	一次元アナログ空間微分処理によるX線画像の鮮明化(Image Processing of X-ray Photographs by One-dimensional Analog Spatial Differential Treatment)
2	田口勇(国立歴史民俗博物館)	歴史試料用化学分析装置の開発(Development of Chemical Analyzers for Historical Materials)
第3セッション		

1	杉田繁治(国立民族学博物館)	国立民族学博物館におけるマルチメディアデータベース(The Multi Media Database at National Museum of Ethnology)
2	洪政国(日本アイ・ビー・エム)	民族学標本の電子カタログ化と概覧(Electronic Cataloging and Browsing of Ethnographic Samples)
3	Pierre Boulanger(カナダ国立研究機構)	博物館収蔵品の複製と記録作成の自動化(Automatic Replication and Recording of Museum Artifacts)

10月1日

第4セッション

1	Lambertus van Zelst(スミソニアン研究機構)	美術品の形状解析システム(Interactive Design Analysis: System Overview)
---	---------------------------------	--